（別紙1）　　令和7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0770403160		
法人名	社会福祉法人　愛誠会		
事業所名	グループホーム　あさがお　西ユニット		
所在地	いわき市植田町本町1丁目11－4		
自己評価作成日	令和7年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253　福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和7年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『バランスの取れた手作りの食事』
『適度な運動』
『質の良い睡眠』
『社会性の維持』
・特に食事に力を入れており、「健康は毎日の食事から」を合言葉に、旬の物を取り入れたメニュー作りから、買物・調理もすべて職員が行っている。
・一人ひとりに応じた支援を行うことで、自立度の継続ができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや研修など機会ある度に、「理念に基づいた支援ができているか」、「職員全員が理念を共有し同じ気持ちで働く事ができているか」、確認をしている。時代に合った地域密着型サービスの意義をふまえ、今年度は理念の作り直しを予定している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、集会や祭りなどの行事に参加し、ホームの理解をしていただけるように努めている。災害非常時に備え、ご協力いただける地域の方の名簿を作成。年1回の消防署立ち合いの避難訓練には参加を呼び掛けている。また地区の中学校・高校・大学の福祉体験依頼には必ず応じている。運営推進会議には町内会長や地区の民生委員が参加してくださっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に高齢者が多いので、介護相談、認知症相談は随時受け付けている。また災害時等に備え、飲食料品やオムツ類など、近隣の配布を見込んで備蓄するように心がけている。AED設置し「子ども避難の家」にも登録、向かいの子どもセンターが休館日に役立てればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームの取り組みや活動内容等をできる限り写真付きで報告し、会議メンバーからはそれについて率直なご意見を頂いている。地区の民生委員や町内会長からは地域の様子を伺うことができ、またホームの様子を地域の皆さんにお伝えいただいている。ご家族代表からは職員についてや処遇についてご意見を頂戴し、より良いサービスに活かせている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や包括職員とは市役所や支所に出向いた際や、電話にて連携を取り、協力関係を築いていけるように努めている。地区の小規模多機能事業所交流会や研修会には毎回出席している。今年度より管理者は、地区の小規模多機能事業所交流会の幹事になっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針に基づき、委員会やそれに関する研修を行い全職員で理解に努めている。玄関の施錠については家族会からの「施錠が必要。行方不明や事故から守って欲しい」との意見から施錠を継続している。ただし、職員の対応が可能な限り、施錠しない時間を作るようにしている。施設内は自由な移動ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止のそれぞれの指針あり、年4回以上　内部研修を行い、年2回以上　いわき市主催、グループホーム協議会主催等の外部研修に参加している。管理者は昨年度、福島県社会福祉士会主催の権利擁護推進員養成研修課程を修了している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については当ホームではまだ実例がないが、法人内、グループホーム協議会でもネットワークがあり、情報交換ができている。いわき市の権利擁護・成年後見センター主催の研修や個別相談会も定期的にあり、解決できる環境にある。月1回ご来訪いただいている介護相談員さんは、現在後見人として携わっておられ身近に相談できる方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安や疑問にはきちんとご理解いただくまで丁寧に説明するように努めている。契約時の場での説明だけでは行き届かないこともあるので、予め契約書を読んでいただき、契約時に再度説明するようにしている。終末期の看取り等についても説明し、意向確認をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議の際には施設や職員に対する意見や要望を伺い、その意見等は速やかに対応するように心がけている。外部に意見等が言いやすいように受付電話番号を掲示している。苦情があった際には法人内苦情解決委員会で第三者委員を交えて速やかな解決に努め、定期理事会でも報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も兼務で介護に携わる事で、問題点や改善が必要な点等を共有できていることから、意見や提案が出やすい環境が作れていると思う。出た意見はミーティング等で相談し合い、スピード感を持って実践に移している。反映に必要性があれば、法人内他部署との連携も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望や意見を聞き、個性や得意なところを生かして、働きやすい環境を作れるようにと考えている。また、安全衛生推進者を中心に安全にも配慮している。法人本部は就業規則(育児・介護・感染症休暇等)をこまめに見直してくれており、働きやすい環境への努力をしている。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはオンライン研修も含め、職員の希望や経験に応じて出席している。本年度は認知症介護リーダー研修と認知症介護実践者研修参加を予定している。法人としては資格取得制度を設け1資格10万円までの補助をし働きながら資格取得ができるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の管理者会議には毎回出席し、情報交換やアドバイスによりサービスの質の向上に繋がっている。また本年度は地区の地域密着型交流会の役員になっており、地域の他施設や医療機関等とのネットワーク作りもできている。先日は包括と協力し、地区の薬剤師に講演を依頼し「高齢者の薬について」学ぶ機会を作った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は以後職員との信頼関係を作るために大事な時なので、初期の会話は丁寧に行うようにしている。出身地、家族構成やそのお名前、仕事歴等　普段の何気ない会話からメモにとり、ご家族からの情報も加えて「自分史」を作成、職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご本人以上にご家族の不安も大きい場合があるので、家族の話もしっかり聞き、思いを理解し寄り添いながら関係性を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には本人やご家族と十分に話し合い、「その時」に必要な支援やサービスを検討。その後状態をみながら段階的な支援ができるように努めている。法人内の他施設と協力病院主治医と週1回会議を行っており、情報共有と連携の準備ができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、利用者と職員がお互いに思い合い、支え合い、学び合う関係を構築している。共存共栄を図れるようにと考え、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のあさがお通信では写真付きで生活の様子や心身の状態をお伝えしている。緊急受診や服薬変更になった際には連絡、場合によっては病院に同行していただいている。ご入居後もご家族の協力が必要な場合は関わっていただけるようお願いし、皆さん快くお受け下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の制限も無くなり、家族や知人の来訪も多く賑やかなホームが戻ってきた。手紙や電話でのやり取りも続いており、介護相談員の来訪も再開した。コロナ以前から付き合いのあったボランティアさんとは今も年賀状や電話などで交流がある。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染予防対策の為に席の間隔を空けつつ、時には皆で距離を取りながら集まり、利用者様が孤立しないように努めた。職員は利用者間の仲介に努め、楽しくて安全な日常が送れるようにと考えている。状況に応じて席替え等も適宜行い、安心してもらえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内特養に移動した方がおり、訪問する際には経過を聞いて関係を保っていけるよう努めている。契約終了後も付き合いがあるご家族様多数おり、頼ってもらえる・安心してもらえるような関係を気付けるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがその人らしい暮らしを続けられるよう思いや希望を丁寧にくみ取ることを大切にしている。意思の表出が難しい場合でもご家族や職員間で情報の共有と話し合いを重ね、出来る限り本人の思いに沿った支援ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の何気ないコミュニケーションを大切にしながら聞き取りを行ったり、アセスメントシートも活用しながら情報を整理し、自分史を作成、職員間で共有している。これまでの生活環境やサービス利用の経過も踏まえ、その人らしい支援ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌での記録と職員間で情報共有を行い、重要事項は申し送りノートでも再確認できるようにしている。変化があった際はその場で話し合い、ミーティングで報告。支援の見直しや改善はスピード感をもって取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方向性について本人・家族・関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した上で、職員の意見も聞きながら、介護計画の作成に努めている。情報を共有し状態に変化があった場合には計画の見直しを行い常に現状に合った支援が提供できるよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になる会話や心身の変化なども丁寧に記録し、全職員が把握しやすいようわかりやすく記入することを心がけている。記録をもとに職員間で情報共有することで、問題の早期発見、支援の質向上や介護計画の見直しに生かせている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に合わせ、既存のサービスに捉われることなく臨機応変に対応することを意識している。日常生活の中で求められる支援を適切に提供し、利用者一人ひとりが安心して、その人らしい暮らしを送れるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが落ち着いてきたなか、さまざまな感染症も流行しているが、徐々に活動を再開している。リハビリ通院、介護相談員の来訪等から始め、ドライブ外出も行っている。今後、以前のような生活に戻ることを想定し、交流があった方とはお付き合いを継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診が週2回あり診ていただいている。また、急変・緊急時は24時間体制で受診できるよう整えている。協力医療機関以外(眼科等)の受診はご家族協力の下、受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が居ない為、協力医療機関と密に連絡を取り合い利用者の状態を共有している。急変時には指示を仰ぎ、早急な対応をとり、必要に応じてホームでの点滴・吸引の対応をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院に入院した場合は、ほぼ毎日訪問し、家族に代わって洗濯物や必要物品を届けている。週1回は法人内他施設と医師・ナースと会議を行い、その場で入院者の状態や治療について報告をいただいている。他医療機関への入院時はワーカーとの電話連絡を行い、随時確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、終末期の対応について本人・ご家族に意思確認をしている。その後、状態の変化に応じ、ご家族、医師と話し合いを持ち、意向に沿った最良の対応ができるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、AEDを設置している。また、急変時、事故発生時に備え内部研修を行い、全職員が適切な対応ができるよう努めている。感染症流行の為外部研修を見送っていた時期もあったが、現在はzoomの整備もして、消防署や企業主催の研修に参加ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	さまざまな災害を想定し、月１訓練を実施している。また、年１回は消防署立ち合いの避難訓練を行い、ご指導をいただいている。災害時は避難場所も決まっており、地域住民や消防団への連絡網も整備し、協力体制を整えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の取り組みに関する研修を行い、全職員が理解し自覚と責任をもって対応している。入浴や排泄等の際はプライバシーに配慮し対応している。部屋のしつらえもオムツ等が見えないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な環境と選択肢を用意し、自ら考え選択できるよう支援している。表現困難な利用者に対しては、日頃の体調変化や表情を読み取り、希望に添えるよう対応している。職員は利用者の気持ちを汲み取れるよう、日々の些細な様子も見逃さないようにして、変化はその都度、申し送りを徹底している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日の気分や体調は異なる為、どう過ごしたいのか自由に選択し、その人らしい生活ができるよう支援している。希望や要望を傾聴し、可能な限り叶えられる環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し衣類選びや整容など見守りの中行っていただいている。自己決定が難しい方には、二択などから選んでいただいている。季節感や清潔感が保てるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮むきなどの下ごしらえを中心に一緒に行っている。包丁や小刀を使える方も多く、その手早さにはびっくりさせられる。日々「○○さんが剥いたジャガイモですよ」と会話しながら楽しく食事できている。買い物から調理まで職員が行い、常に季節の旬のものを取り入れられるよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康面を考慮し、個々の嚥下状態に応じて刻みやトロミ、ミキサー食を提供している。食欲不振で水分確保さえ難しい時も、温度を工夫したり、ジュースや甘酒などを用意するなど、飲んでいただく工夫をして提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導行っている。ブラッシングは難しい方には介助し、うがいが出来ない方には口腔内清拭している。夜間は義歯を預かり、洗浄・消毒をし清潔を保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができる人には声掛けにて便座に座っての自力排泄を支援している。入所当時はオムツだった方が、見守りのもと立位も安定されたため、本人が希望され日中のみオムツからリハパンに変えトイレにての排泄対応をしている例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立には食物繊維の多いものや便通に効果のある発酵食品などをバランスよく提供している。午前、午後と体を動かし、歩行可能な方は自主的に歩行運動も行っている。車椅子の方は便秘になりがちである為、排泄チェック表で排便の統計を分析し主治医と連携し服薬コントロールしている。下剤も個々に合わせて数種類を組み合わせて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行っている。本人のペースに合わせ、リラックスして入浴できるよう声掛けし、時間の希望、同性介助希望にも対応するようにしている。また、出来ることは可能な範囲でご本人に行っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前と午後にリビングにて体操やレクレーション、脳トレなどの時間を設けている。その合間はプライバシーも守られている個室にて自由に休息していただいている。日中、体を動かしたり脳トレで頭を使うことによって適度な疲労感から夜間の安眠につながる様に支援している。室温や照明も個々に合うように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬をファイリングし職員が服薬内容を把握しやすくしている。服薬内容に変化があったときはその都度申し送りしている。一人ひとりの名前を記入したケースに入れ、飲み忘れや誤薬がないように、書かれた名前を確認し服用する際も名前を読み上げるなどし確認を重ねて服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事、好きな事を自分のペースで行って頂けるように、楽しい時間や空間作りを支援している。また、個々の能力に応じたお手伝いや仕事を用意している。時には皆さんの希望に合わせたお菓子や飲み物も用意し、満足したり楽しまれたり、集団生活の中で気分転換等できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にご家族と外食やドライブ、近隣を散歩される方が数名おられる。嬉しそうな表情でお帰りになり、良い気分転換になっているご様子。ご家族が遠方の方にはご本人の希望に沿ってご自宅や墓参り、役所などに帯同も行っている。天気の良い日は敷地内で日光浴、花壇の花を摘んだり向かいの公園まで散歩に出かけ、季節を感じたり地域の方との交流も出来ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる能力があり、希望されている方には所持して頂いている。(ユニット内2名)自らお金を出して買い物をするということは、生きがいを感じられる行為の一つ、希望があればできる限り叶えられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご友人から手紙が届く方がいて、葉書を用意し文言のアドバイスをして手紙のやり取りが続くように支援をしている。電話があった際にはご様子や状況に応じて本人に取り繋いでいる。お孫さんと絵手紙の交流されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や天候、時間などに応じ適切な温度や室温照明等調整し快適な空間を維持できる様努めている。玄関やリビングには季節を感じる生け花を飾っている。廊下には思い出の写真や入居者作の制作物等も掲示し、楽しめる空間となっている。共用部はまめに清掃や換気を行い、清潔の保持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでも静かに過ごしたい方には一人用のテーブルやソファを用意し、ゆったりと過ごしていただいている。また席を移動して気の合う方同士で交流やテレビ鑑賞を楽しまれたりと自由な空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居室は一人の空間としてプライバシーに配慮している。ベッド、クローゼット、タンスと備えつけに加え、入居時に自宅から馴染みの家具や寝具、家電、写真、仏壇に至るまで自由に持ち込んでいる。自宅の環境に近づけ居心地の良い空間にできる様にと配慮している。設置や配置はご本人の希望と、動線や安全面にも配慮しながら落ち着いた環境となる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの身体機能や理解能力に応じた支援を行っている。トイレや居室、席には目印やネームをつけ分かりやすくしている。夜間のみポータブルトイレを使用、安全と自立を図っている。個人の移動範囲を知り、自由な移動ができるように環境を整えている。		

別紙2

事業所名　グループホーム　あさがお

作成日：　7　年　11　月　21　日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策として、地域住民や地域消防団の協力者名簿を作成して避難協力体制を整備したが、コロナ禍以降は確認ができていない。	地域との協力体制を再構築できるよう努める。	・協力者名簿の更新 ・年1回の消防署立会いの避難訓練等に参加を求める	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。